

## 1. 地域農業の状況

- 登米市は、宮城県の北東部に位置し、北は岩手県、西は栗原市、南は石巻市および遠田郡、東は本吉郡に接している。

平成17年に9町が合併し、広大で平坦肥沃な登米耕土を有し、ササニシキ、ひとめぼれの主産地として有名な地域である。



- 登米市は米を中心とした土地利用型農業を中核としているが、畜産についても全国有数の銘柄牛の産地にもなっている。この豊かな環境を引き継ぐため自然との共存を意識した環境保全型農業に市全体で取り組んでいる。

- 今回の事業地区は登米市米山町今泉地区の、丘陵地にある田んぼであるが、高齢化や後継者の不足等により、耕作放棄地が増加している。

|       |          |        |        |
|-------|----------|--------|--------|
| 耕地面積  | 18,100ha | 総農家数   | 9,177戸 |
| 田耕地面積 | 16,200ha | 自給的農家数 | 1,994戸 |
| 畑耕地面積 | 1,930ha  | 販売農家数  | 7,183戸 |

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）



ハウス全景



ハウス内部

## 2. 耕作放棄地再生利用の取組

|      |                  |      |               |
|------|------------------|------|---------------|
| 取組主体 | 新規就農者            | 地区名  | 登米地域          |
| 再生面積 | 0.3ha（経営面積0.1ha） | 取組年次 | 平成24年～平成25年   |
| 作付作物 | トマト（中玉トマト）       | 販路   | 登米市内の直売所、仙台市場 |

## (1) 就農に至る経緯

- 非農家出身だが自らの手で物を作り、生計を立てる仕事があったこと、猛禽類の調査・研究をするNPO法人に勤務した関係もあり自然環境と向き合うライフスタイルを実現するため農業を選択した。登米市内の施設トマトの先進農家で研修を行い、平成25年1月に就農した。

## (2) 耕作放棄地の活用と今後の予定

- 就農するにあたり、宅地もあり施設も使える農地を地区の農業委員の協力を得て探したところ、今回の土地を斡旋された。長年耕作されておらず柳等も繁茂し人力での再生が難しいため、登米地域耕作放棄地対策協議会に相談に行き、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を紹介され、平成24年度に再生作業（重機使用）を行い、平成25年度に施設等補完整備事業により中古ハウス施設を購入した。
- 平成26年から本格的に栽培を始め、主に登米市管内の直売所や道の駅を中心に販売し、一部は仙台市場にも出荷している。病虫害対策や温度・湿度などの施設環境、養液の状態等に気をつけ月平均2tを目標に高品質なトマト栽培を目指している。現在、労働力は2名であるが、収穫量が多くなれば、パートを1～2名雇用する予定。
- また、隣接地には取得地と同様の耕作放棄地となっている農地があるので、再度、事業を利用し規模拡大を図っていく考えである。

## 活用した支援策

H24～H25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）（再生作業・土壌改良・施設整備等）  
H23～H24 青年就農給付金（準備型）（国）・H25登米市園芸産地拡大事業（登米市）